

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛厚はなのきの里	階数	地上2階
建設地	愛知県稲沢市祖父江町祖父江寺西	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	133 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年5月9日
敷地面積	11,635 m <sup>2</sup>	作成者	内藤建築事務所
建築面積	3,212 m <sup>2</sup>	確認日	2019年5月9日
延床面積	4,743 m <sup>2</sup>	確認者	内藤建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 80%

③上記+②以外の 80%

④上記+ 80%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.7

#### ③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

37.0 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

#### ②資源の有効活用

3.6

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



<b>3 対応性・更新性</b>				3.3	0.29	3.5	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	4.0	4.0	0.50	
1 階高のゆとり			階高 1階4.15m、2階 3.85m	4.0	0.60		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.10	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②		3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30		-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.6
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI 0.8以下(複層ガラス等)	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライト・トップライトの設置	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化			照明の一部人感センサー付	3.8	0.30			-	3.8
4 効率的運用				2.5	0.20			-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			-	3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	床タイル(屋外床)、ビニル床シート(内部床)、再生砕石(基礎・土間)	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	鉄骨造としてリサイクル容易	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値 80%	3.7	0.33			-	3.7
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	職員・来客・公用車車庫の確保、構内道路は一般車通り抜け可	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明なし	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

**重点項目スコアシート**

愛厚はなのきの里

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:37%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者支援施設として、高齢者や重度の方も安心して暮らせるような利用者にやさしく地域移行しやすい空間構成とする。</li> <li>・ひとりひとりがその人らしく生きる、地域とともに支えあう生活の場とする。</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室はグラスウール入りの乾式間仕切・天井裏グラスウール敷込とし、音環境に配慮した。</li> <li>・各居室は個別空調とし、部屋ごとに冷房・暖房の選択が可能なシステムとした。</li> <li>・F☆☆☆☆建材を採用し、化学物質の放散を極力抑えた。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材を用いて安らぎを感じられる内装とし、内観パースでも確認を行った。</li> <li>・空調熱源を電気とガスで分散化を行なっている。</li> <li>・床下隠蔽の配管・配線を極力避け、更新性を考慮した。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地西側・南側の樹木や一部芝生を残し、生物環境を保全した。</li> <li>・切妻屋根として養老山系の山並みや木曾川のやわらかな流れ、周囲の住宅と調和する外観とした。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断熱材を厚くすることで冷暖房負荷を低減し、室内環境を向上させた。</li> <li>・ハイサイドライト・トップライトを採用し、日中は自然光で明るくなるような計画とした。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動水栓を積極的に採用し、節水効果を図った。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地西側・南側の樹木や一部芝生を残し、外構はできる限り芝生とすることで、周辺への熱的な影響を抑えた。</li> </ul>
その他	